【表紙】
蟻の歌　全四巻

【表紙　裏】

【1頁】
（発育フィルム）
蟻の歌
全四巻　壱・弐壱五米

台湾総督府
O第五六五号
検閲済
有効期間
自昭和十六年四月九日
至昭和十九年四月八日

活動写真「フィルム」検閲規則第十条第二項ニ依リ手数料ヲ免除ス

障害ナシ

【2頁】

【3頁】
便概
両親に死別し孤独となつた金子清二は草深い田舎で一人淋しく余生を送つてゐるお祖母さんの許へ引取られ、村の小学校へ通学する身となつた。
　平和な農村、慈愛深い祖母、清二にとつて何一つ不満のない生活であつたが、村の悪童達は何故か清二を事毎にいぢめ、親しくしてくれないのが悲しかつた。その清二を慰めてくれるのは悪童達に除け者にされてゐる不具者の五郎であつた。自然二人は厚い友情に結ばれた。
　一善会を組織し自ら会長となつて村長に貯金を奨励してゐる吾助爺さんの処へお使ひに行き『銃後国民の一番の御奉公は貯金をする事だ』と聞かされ、お小遣ひや松脂を売つたお金を一銭たりとも無

【４頁】

駄使ひせず竹筒の中に貯めて一善会の吾助爺さんに郵便局へ預金をしてもらふ事にした。或る日、水に溺れる悪童の善吉を身を以て救助し手厚い看護をした。その美しい清二の精神に悪童の善吉は深く前非を悔ひ、お互ひに仲よく助け合ふ事を誓つた。

学校で先生より「戦争はまだ　ゝ　この先何年続くか判らない。我が日本は未だ嘗てない重大時局に直面してゐる。吾々銃後国民は、より一層緊張して節する物は節し無駄を省いて一銭でも多く貯金をし国民の発展に資すべきである。貯金をする事こそ我々銃後国民に課せられた義務である」といふ事を説明され、全校生徒が一丸となつて貯金に励む事になつた。（便概　終）

◎　ロケーション地　　群馬県利根郡新治村

【５頁、上段】

第一巻

Ⓣ１　便概
Ⓣ２　加治商会マーク
Ⓣ３　蟻の歌
Ⓣ４　原作　佃順
　　脚本
　　演出　山口□弘
　　撮影　岡野進一
　　島崎陽一
Ⓣ５　演出補助　萩村正光

【５頁、下段】

○　音頭
（蟻の歌ゝ調）

エン□サカサカエンサのホイ
重いお荷物背負つてる
アリさん行列かはいゝなァ
エン□サカ道どこへゆく

エン□サカサカエンサカホイ
もうぢき冬がやつてくる
冬の仕度だなまけるな
働け　ゝ　チョンキン貯金

【6頁、上段】

〃　村山清
撮影補助　小川喜七
〃　関実
製作事務　木村利一

Ⓣ6　録音　KSトーキー
音楽　ポリドール管弦楽団
指揮　太田保三郎

Ⓣ7　役と人
清二君　金子清二郎
お婆ちやん　二葉かほる
五郎君　奥岡英二郎
善吉君　小澤定美

【6頁、下段】

◎　音楽終了

【7頁】

太助君　小林栄進
一平君　洲崎正直

Ⓣ8　吾助さん　竹村信夫
吉田さん　豊田憲太郎
仙助さん　服部五郎
井上先生　上野一郎

Ⓣ9　蟻の歌主題歌「蟻の歌」　ポリドールレコード
作詞　玉木登美夫
作曲　太田伴三郎

歌手　矢田稔
〃　矢島美子

ポリドールマーク　レコード番号（Ｐ一〇一八）

【８頁、上段】
（台詞）
１仙助　「やあ今日は」
２婆ちやん　「あゝ仙助さん　今日は」
３仙助　「御隠居さん　どちらへ」
４婆ちやん　「今日は東京から孫が来るんでな　今停車場まで迎へに行くところさあ」
５仙助　「ほう　何日かの話の」
６婆ちやん　「倅の遺言ではあるし　わし一人でだつて可愛い孫と二人で暮らせりやこんな幸福はないでのう　さあ御免よ」

【８頁、下段】
□□の音

【９頁、上段】
７仙助　「ぢや行つてらつしやいませ」
８婆ちやん　「清二！」
９清二　「お婆ちやん！」
１０婆ちやん　「清二や！」
１１清二　「お婆ちやん！」
１２婆ちやん　「清二や清二うむうん」
１３清二　「お婆ちやん」
１４婆ちやん　「よう来た・・・一人でよう来られたのうお婆ちやんは昨日電報を見た時から待遠

【９頁、下段】
汽車の音
人々の雑音

【１０頁、上段】

しいやら心配やらで昨夜は一回も眠れな
んだぞ　本当によく来たのう　うむ　ゝ　」
１５清二　「婆ちやん　ゝ　あれすげえなあ」
１６婆ちやん　「うむ危ないよ　のり出しちや」
１７清二　「すげえなァ」
１８吾助　「あゝお帰りかい」
１９婆ちやん　「はい」
２０吾助　「おゝ　お父ちやんに似た利巧そうな子
ぢやなァ　おう」

【１０頁、上段】
バスの走る音
警笛

ラッパの音

【１１頁、上段】
２１婆ちやん　「吾助さん又何かと御面倒願ひ致します」
２２吾助　「おゝ　いゝとも　ゝ　」
２３婆ちやん　「子供の事でございますからね・・・」
２４吾助　「あゝ　いゝとも　ゝあ」
２５婆ちやん　「それでは御免下さい
あゝ　いゝ子ぢや　ゝ　」
２６吾助　「あゝ御免よ」
２７婆ちやん　「清二や駆けると危ないよぅ」
２８清二　「こつち　あつち」

【１１頁、下段】

音楽続く

【１２頁】
２９婆ちやん　「こつちだよ」
３０　〃　「清二や　こつちだよ　ゝ　ほうら」
３１清二　「お婆ちやん此の竹藪すごいなァ」
３２婆ちやん　「これはね　村に一つしかないお婆ちやん

自慢の藪だよえへどうだい」
３３清二　「わあいお婆ちやん家凄えいなァー　でつかい竹藪もあるぞお婆ちやん」
３４婆ちやん　「清二や清二や丁度いゝよ」
３５清二　「はーい」

【１３頁、上段】
３６清二　「お婆ちやん熱いや」
３７婆ちやん　「そうかい」
３８　〃　「そうら丁度いゝだらう」
３９清二　「うん」
４０　〃　「お婆ちやん今迄一人で淋しかつたらうね　こんな大きな家で」
４１婆ちやん　「だがのう今日からはお前が居てくれるんでのうハァ　ハァ　ハァ・・・」
４２清二　「お婆ちやん　ゝ　」

【１３頁、下段】
バケツの音
笑声
ふくろの声

【１４頁、上段】
４３婆ちやん　「こはいのかい」
４４清二　「あれ何あに」
４５婆ちやん　「ふくろが鎮守の森で啼いてゐるんだよ」

【１４頁、下段】
ふくろの声

（第一巻　終）

【１５頁、上段】
第二巻

１先生　「今日新しく東京から転校して来た金井清

二君を紹介します　起立　礼」
２先生　「金井君は田舎は初めてなんだ　みんな
これから金井君のいゝ友達となつて互に仲よ
く励まし合つてしつかり勉強しなければい
けない」
３先生　「えゝ此処だよ君の席は　おい　ゝ　仲よく
するんだよ」
４生徒　「はい　ゝ　はい　ゝ　ゝ」

【１５頁、下段】
生徒立上る音
令　座る音
足音

【１６頁】
５先生　「高橋さん読んで」
６高橋　「第七苗代の頃春の少い暖い晩「くゝ」と
蛙の鳴き声がする　其の頃から貴間は広い
田園の一部で」
７清二　「お婆ちやん」
８婆ちやん　「うん」
９清二　「お婆ちやん　明日から迎へに来なくても
いゝよ」
１０婆ちやん　「さうかい　でもなァ」
１１清二　「大丈夫だよお婆ちやん」

【１７頁】
１２婆ちやん　「でもなあ　お婆ちやんは心配でのう」
１３清二　「大丈夫だよ」
１４婆ちやん　「大丈夫かなァ」
１５婆ちやん　「今日は」
１６仙助　「やあ御隠居さん毎日大変で」
１７婆ちやん　「有難うございます」
１８清二　「おぢさん今日は」
１９仙助　「あゝ清坊　学校は馴れたかい」

２０清二　「うん」

【１８頁】

２１婆ちやん　「どうも有難うございます　では御免下さいませ」

２２仙助　「御免なさい」

２３村人　「やつぱり東京の子だ　行儀がいゝよ」

２４仙助　「うん　御隠居さんが舐める様に大事がるのも無理はねえだよ」

２５村人　「そうだナ」

２６仙助　「さあ行くべか」

２７婆ちやん　「吾助さん今日は」

【１９頁】

２８清二　「おぢさん今日は」

２９吾助　「あゝ今日は　どうだい清坊うは　少しは馴れたかい」

３０清二　「うん」

３１婆ちやん　「でもな　夜などは未だ一人ではよう寝んでのう」

３２吾助　「うむそうれみろ　まあお婆ちやんのおっぱいをたんとしねぶるがいゝよ　ハァ　ゝゝ　」

３３清二　「うそだい」

３４婆ちやん　「まだ子供でのう」

【２０頁、上段】

３５吾助　「あゝ　ゝ　うむうむハァ・・・・」

３６善吉　「おいお前ハーモニカ持つてるだらう」

３７清二　「うん持つてるよ」

３８善吉　「俺に貸せよ」

３９清二　「うん」

４０一平　「俺にも貸せよ　お前吹いてみな」

４１善吉　「これ俺にくれよ」

４２清二　「駄目だよ一つしかないのだもの」

４３善吉　「いゝぢやねえか　お前又東京から送つて

【２０頁、下段】
ハーモニカで□□□行進曲

ハーモニカを吹く音
ハーモニカ吹く音

【２１頁、上段】
もらへよ」
４４清二　「もう送つてくれる人が無いんだから駄目だよ」
４５　〃　「返してくれよ！」
４６善吉　「くれよ　な　その代わり俺らの仲間に入れてやる　なあみんな」
４７一平　「うん」
４８太助　「うん」
４９清二　「いやだよ　返してくれよ」

【２１頁、下段】
ハーモニカを吹く音

【２２頁、上段】
５０善吉　「ふん　なんだこんなもの」
５１　〃　「おいお前　毎晩お婆さんと一緒に寝るんだらう　弱虫！」
５２一平　「東京の学校に居たと思つて威張るない」
善吉
５３太助　「やあい　ゝ　弱虫やい　ゝ　ゝ　・・・」
一平
５４五郎　「善ちやん達ずい分いぢ悪だなァ」
５５清二　「うん」
善吉
５６太助　「やあい　ゝ　弱虫やい　ゝ　」
一平
５７仙助　「おゝ清ちやんぢやないか　何してるだ

【２２頁、下段】

ハーモニカを地面へ投げる音
倒れる音
音楽続く

【２３頁、上段】

さうか　東京へ帰りたくなつたんだなァ」
５８清二　「ふうん□違ふよ」
５９仙助　「さうか……うむぢや誰かにいぢめられた
んだらう　うむ」
６０清二　「おぢさん　魚つてかたまつて泳いで行くん
だね」
６１仙助　「うん　そうだ」
６２清二　「魚つて　みんな仲がいゝのかね」
６３仙助　「うむ　さうだとも　お前達も仲よくしね
えと魚に笑はれるさ　さあ俺らあナおめえ

【２３頁、下段】

蹄鉄の音

【２４頁、上段】

んちの方へ行くだ　さあ乗せてつてやんべ
えか　うむ　さあ乗れや　さあ乗った
うむ」
６４井上先生　「気を付け！休め！これから畑の草取の実
習に取かゝるから怪我をせぬ様させぬ様
よく注意してお互ひに一生懸命によりなさ
い金井君と林君は見学をしてゐなさい。
気を付け　右向け右―駆け足」

（画中文字）
作物名　葱
品□名　上沼□葱
□□又□□□　五月十四日
□□□　□□九〇□
□□一〇□

【２４頁、下段】

ハーモニカで□□進軍歌
かけ足の音
鍬の音
小鳥の鳴声

【２５頁、上段】
６５清二　「五郎ちやん足どうしたの」
６６五郎　「小さい時病気したんだよ」
６７清二　「ふん　復習がすんだら遊ばない」
６８五郎　「うん遊ぼうよ　嬉しいなァ」
６９清二　「あっ捕れたぞ」
７０五郎　「何匹とれた」
７１清二　「二匹だぞ」
７２　〃　「ほーら」
７３五郎　「でつけえなァ」

【２５頁、下段】
音楽続く

【２６頁】
７４清二　「これで五匹だぞ」
７５五郎　「凄いなァ」
７６清二　「また捕つて来らァなァ」
７７五郎　「うん」
７８善吉　「おい」
７９五郎　「あッ清ちやん　ゝ　」
８０清二　「あッ」
　　善吉
８１太助　「やあーい　ゝ　弱虫やい　ゝ　」
　　一平
８２五郎　「有難う　明日先生に言ひ付けてやるぞ

【２７頁、上段】
　　言ひ付けてやるぞ」
８３五郎　「清ちやん」

８４清二　「うん」
８５五郎　「大きくなつたら何になんの」
８６清二　「汽車　汽車の機関士」
８７五郎　「いゝなァ　俺ァ汽車へ一度も乗つたことねえや」
８８清二　「えゝと　それから少年戦車兵　タンクタンクだ！」

【２７頁、下段】

音楽

【２８頁】

８９清二　「軍艦　軍艦だ！」
９０　〃　「少年航空兵　飛行機だァ！」
９１　〃　「ブン　ゝ　」
９２五郎　「凄えなァ」
９３清二　「ぶん　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ・・・・・」

（第二巻　終）

【２９頁、上段】

第三巻

１清二　「みんな何してんだい」
２五郎　「松脂（ヤニ）とつてんだよ」
３清二　「松脂なんか何にするんだい」
４五郎　「町の人が買ひに来るんだよ」
５清二　「松脂売れるの？」
６五郎　「うん」
７善吉　「おーい一平　ゝ　」

【２９頁、下段】

小鳥の声

虫の声
松脂を取る音
落し穴をほる音

【３０頁、上段】
８善吉　「おい見て来い早く　ゝ　」
９太助　「来たぞ」
１０善吉　「おい早く　ゝ　」
１１五郎　「あッ」
１２清二　「あッ」
　善吉
１３太助　「やあい　ゝ　弱虫やい　ゝ　ゝ・・・・」
　一平
１４清二　「大丈夫かい」
１５　〃　「大丈夫？五郎ちやん」
１６五郎　「痛かないや」

【３０頁、下段】
ハモニカの音
落とし穴へおちる音

【３１頁、上段】
１７五郎　「清ちやん　ゝ　」
　善吉
１８太助　「やあーい　ゝ　弱虫やい　ゝ・・・」
　一平
　「やあい　ゝ　弱虫やい　あつかんべえや
　ーい　ゝ　弱虫やい」
１９婆ちやん　「清二や清二や清二やあー」
２０清二　「お婆ちやん　ゝ　なあに」
２１婆ちやん　「あゝこれ初物だ　吾助さんの処へ持つて
　行きな」
２２清二　「うん」
２３婆ちやん　「これ　ゝ　割れたらどうするだ　あぶねえ

【３１頁、下段】

音楽

【３２頁、上段】

（画中文字）

一日一善

国威宣揚武運

長久

謹賀新年　□□□

佐藤□太郎

皇室万歳

□□□□

一善貯金

【３２頁、中段】

でねえか」

２４婆ちやん　「これ駈けるでねえぞ　気を付けて行くんだぞ」

２５客Ａ　「こゝへおいたよ」

２６吾助　「有難うござい」

２７客Ａ　「お先」

２８客Ｂ　「あゝ御免なさい」

２９吾助　「毎度有難う」

３０吾助　「有難うございます」

女房

【３２頁、下段】

銭の音

【３３頁、上段】

うどん

きそば

一善めし

【３３頁、中段】
３１吾助　「あーあ　うむ」
３２清二　「おぢさん今日は」
３３吾助　「おゝ清ちやんか」
３４清二　「これ初物だつて」
３５吾助　「おゝこりや見事な出来ぢや有難う　ゝ　」
３６吾助　「おゝ　ハァハァハァ　おういゝよ　今な　お駄賃をやるから持つてゐな」
３７吾助　「そうれ　お駄賃だ　ハァ・・・・・」
３８清二　「どうも有難う」

【３３頁、下段】
貯金箱へ
銭を入れる音
笑声
笑声

【３４頁、上段】
３９吉田　「今日は」
４０吾助　「あっ」
４１吉田　「何時も御繁昌ですな」
４２吾助　「いや御苦労さんです　さあどうぞ　ゝ　」
４３吉田　「おゝいゝや」
４４吾助　「さあ　まあ一つ」
４５吉田　「いや　有難う」
４６吾助　「どうですな成績は」
４７吉田　「いや上の上ですぞ　一日増しに会員は増え

【３４頁、下段】
□を□ふ音

【３５頁、上段】
（画中文字）
一善貯金
一善めし　十一銭
お惣菜

うどん　七銭
そば　　七銭
すし　　十銭
のり巻　十銭
□□一切□し
　一善□□人

【３５頁、中段】

　えるし金高は上るし」
４８吾助　「あゝそりや結構なこつた有難いこつちや」
４９吉田　「ぢや最後の集会に会長さんの今月分を一つ」
５０吾助　「あゝ一つお願い致しますだ」

５１吉田　「会長は今月幾らありますかな」
５２吾助　「さうだ　さあ幾らあるだか」
５３吉田　「皇国の興廃此の一銭か　先づ　ゝ
　銃後の国民の一番の御奉公は貯金でせうな」

【３５頁、下段】

竹筒の金の音
竹筒より金を□る音
銭を数へる音

【３６頁、上段】

５４吾助　「あゝあ　そうとも　ゝ　それでこの一善
　貯金が光ると云ふもんですよ」
５５吾助　「ハァ　ハァ　・・・・・」
　吉田
５６吉田　「それやそうと此の頃学校の子供たちが松
　脂を町の商人に売ると云ふ話ですが　その
　銭は一体どうしてゐるんですかい」
５７吾助　「ふむ　ゝ　そいつァ初耳ぢや　どうせ子供の
　こつた、ろくな使ひ方はしないでせう」
５８吉田　「だが子供の無駄使ひの一銭二銭でも馬鹿
　に出来ませんぞ　日本全国となると大きい

ですからなァ」

【３６頁、下段】

二人の笑声

【３７頁、上段】

５９吾助　「うーんうむ、そうとも　〻　そうですとも
全くです」

６０吉田　「一円十銭」

６１吾助　「八十五銭」

６２吉田　「一円二十五銭」

６３吾助　「一円五銭」

６４吉田　「一円四十銭」

６５婆ちやん　「清二や出来たかいあゝ」

６６清二　「うん　ほーら」

【３７頁、下段】

銭を数へる音

竹を切る音

竹筒を作る音

竹筒の金の音

【３８頁、上段】

６７婆ちやん　「ほーら　いゝ音がするね」

６８　〃　「お婆ちやんの一つ入れてやるよ　□ちな
どれ　ほーら一つ二つ」

６９清二　「どうも有難う」

７０婆ちやん　「あゝ　はゝいゝ良いことだなあ　〻　〻　」

７１井上先生　「さあ　みんな一緒に読んで」

７２生徒　「国民の覚悟」

先生

７３井上先生　「さて戦争はこの先　何年続くか判らない
銃後の我々国民もより一層緊張せねばなら
ないと思ふ　処で此の際君達はどういふ事

【３８頁、下段】
竹筒へ金を入れる音
竹筒の金の音
黒板へ
字をかく音
□の音

【３９頁、上段】
をしたならば一番お国の為になると思ふか
菊池君」
７４菊池　「ハイ　勤労奉仕」
７５先生　「よし　木下君」
７６木下　「古釘を集める事です」
７７先生　「よろし　田川君」
７８田川　「ラヂオ体操です」
７９先生　「よし　橋本君」
８０橋本　「いもを食ふ事です」

【３９頁、下段】
□の音
立上る音
立上る音
立上る音

【４０頁、上段】
８１先生　「よし　代用食だナ　本田さん」
８２本田　「慰問袋を送る事です」
８３先生　「よろしい　木村さん」
８４木村　「品物を大切にします」
８５先生　「よし　みんな大変よろしい　金井君」
８６清二　「ハイ　貯金をする事です」
８７先生　「ふむ貯金　よろしい」
８８　〃　「貯金は一番いゝ事だ　どんな風にやつてゐる」
８９清二　「お小遣ひや松脂を売つたお金を竹筒の中

【４０頁、下段】

黒板へ
字をかく音

【４１頁、上段】
（画中文字）
国民の覚悟
貯金

【４１頁、下段】
にためて一善やのおぢさんに郵便局にあづけてもらひます」
９０先生　「ふーむ一善貯金だな　それはいゝ事だいゝ心掛けだ　大変によろしい　大変結構だと先生は思ひます」
９１　〃　「処で今の日本に何故貯金が大切であるかといふ事を先生が説明するから皆よく聞いてゐなさい　日本は今　支那で大戦争をしてゐる　此の戦争に使ふ」

（第三巻　終）

【４２頁】
第四巻
１井上先生　「大砲や鉄砲、タンクや飛行機を作るのに一年何十億円と云ふ大きな金が要る　又これらの武器を作る工場をどし〻　拡張しなければならないがこれにも一年何十億円もかゝる　このお金は皆国民一人々々の手で造らねばならぬ　国民全部が貯金しなければならぬ　戦争になると人も物も金も戦争の方に取られる　だから日常必要なものも我慢しなければならない　それを平素と同じ様に物をむやみに買込んだり物を無駄に使つてゐたら貯金が出来ないばかりか、品

【４３頁】

【44頁】

物の数は少くなつて、その値段はどんゝ上つてゐく事になります　例へば前に一本の鉛筆がある　これは一本五銭とする。此の鉛筆を欲しい者が一人だけなら五銭で売り買ひされるのだが希望者が五人十人と出た場合　一本より無いものを五人も十人も買ほうとするのですから　どうしても鉛筆が欲しい為にお金を沢山出してでもその鉛筆を買ほうとする　そうすると今迄五銭で買へた鉛筆が五十銭にも一円にも売れる事になる　此の鉛筆がどうしても欲しいとすれば或は十円にも売れるかも知れない　つまり一口に云ふとお金を持つてゐる買ひたい人が沢山ゐて物が少なければ物の値打が上つてお金の値打が下ると云ふ訳だ　之が即ちインフレーションで俗にインフレと云はれてゐる　このインフレになると飛行機を作るにしてもタンクを作るにしても政府の方では今日よりも　もつとゝ　沢山お金を出さなければならない事になつて戦争に必要な物を充分に作る事が出来ない事になり戦争を続けてゆく事が出来なくなるだけでなく　皆さんが生活に必要な品物を買ふにしても沢山お金がなければ買へない事になつて生活が益々苦しくなり　終ひには国民全部が苦しみと飢死する様になる　戦争は

【45頁】

勿論出来なくなつて大敗北となる　ですからインフレは日本の生命とりとも云ふべき恐ろしい強敵で　如何に日本の国民が賢いからと云つても　このインフレに乗ぜられたならば連戦連勝の国も敗北をとる　外の敵よりも内の敵が恐ろしいと云ふのはこの

事です　つまり内に敵を作らない事にあるのです　それではどうすればよいかと云へば実に簡単明瞭だ　大人でも子供でも日常の心掛け一つで此の強敵を防ぐ事の出来る方法が一つだけある　それは無駄を省いて貯金をすること　これです　ですから紙一枚鉛筆一本に至る迄大切に使へるだけ使ひ

【４６頁】

お互の生活費を出来るだけ切詰めて、たとへ一銭でも多く貯金する事に心掛けてこれを実行してさへ居れば　如何に強敵といつても此の敵よりも貯金の方が遥かに強いので自然に逃げて行つていしまふのです」

２先生　「みんな判つたね」
３生徒　「ハイ」
４先生　「金井君」
５金井　「ハイ」
６先生　「一寸此処へ来給へ」

【４７頁、上段】

７先生　「金井君のやつてゐる竹筒貯金は非常にいゝ事だ　みんなも無駄使ひをやめて金井君のやうに貯金してお国の手助けをしなければいけないのだ　判つたね」
８生徒　「はーい」
９婆ちやん　「おや又貯金箱をこしらへてゐるんだね」
１０清二　「うん　五郎ちやんのだよ」
１１五郎　「お婆ちやん　清ちやんね今日学校でほめられたんだよ」
１２婆ちやん　「どうしてだね」

【４７頁、下段】

竹を切る音

【４８頁】

１３五郎　「あのね　竹筒貯金でね　先生にほめられたんだよ」

１４婆ちやん　「ふん」

１５五郎　「それでね　僕もね清ちやんに作つてもらつてゐるんだよ」

１６婆ちやん　「ふん　そうかい　それはよかつたねえ」

１７　〃　「おやあ　清二やそんならみんなにも竹をやつてもいゝんだよ　ね清二おやりな」

１８五郎　「善ちやん達も欲しがつてんだよお婆ちやん」

１９婆ちやん　「ふむ　そうかい　ゝ　清二やあの子達にも

【４９頁】

おやりよね　おやりよ」

２０清二　「嫌だい」

２１婆ちやん　「これ　ゝ　そんな事を云ふもんぢやないよお国の為になる事ならね此の藪全部竹筒にしても構はないんだよね」

２２　〃　「ね　おやりなさい　おやりねおやり」

２３　〃　「おやりよね　清二おやりなさい」

善吉

２４一平　「あッ」

太助

２５五郎　「清ちやん」

【５０頁、上段】

２６婆ちやん　「清二これ清二」

２７清二　「善ちやん　ゝ　」

２８善吉　「おい早く逃げろ　ゝ　」

２９清二　「おーい　みんなー」

３０　〃　「おーい　善ちやん」

３１善吉　「もつと早く　ゝ　」

３２清二　「善ちやん」

３３　〃　「あッ」

３４　〃　「善ちやん早く　ゝ　」

【５１頁、下段】

足音
川へ落ちる音
水の流れる音
水中へ入る音

【５２頁、上段】

３５清二　「善ちやん　ゝ　」
３６　〃　「早くつかまんなよ」
３７　〃　「何してんだよ早くつかまんなよ」
３８　〃　「善ちやん痛くない　痛くないかい」
３９善吉　「うん　お前俺を追ひかけて来たんだらう」
４０清二　「あゝそうだよ、みんなに竹やらうと思つたんだよ」
４１善吉　「清ちやん！」
４２清二　「何んだい」

【５２頁、下段】

水より出る音

【５３頁、上段】

４３善吉　「今迄のこと御免ね」
４４清二　「うん　いゝんだよ」
４５善吉　「仲よしにならうね」
４６清二　「うん　ならう　これやらあ」
４７善吉　「これくれるのかい　有難う　すげえなァ」
４８清二　「いゝ竹だらう」
４９善吉　「うん」

【５３頁、下段】

○　音楽
（蟻の歌主題歌々詞）

【５４頁、上段】

Ⓣ１
蟻の歌　終
加治商会作品

【５４頁、中段】
（以上）

【５４頁、下段】
チョツキンチョツキン貯金箱
一日一善いたしませう
日毎にふへてくチョッキン箱
アリさん小僧さん負けないヨ

チョツキンチョツキン貯金箱
ずらり並んで竹筒□う
竹筒貯金だそらためろ
僕らは銃後の子供たち

【データ採録者…藤井靖幸】【校正…森田健嗣】